

旧病理学第一講座関係資料を大学文書館で受贈

3月30日(火)、大学文書館では、笠原正典教授(大学院医学研究院分子病理学教室)から、分子病理学教室の前身である病理学第一講座にまつわる沿革資料7点をご寄贈いただきました。

この度、受贈した資料は、初代教授の今裕博士(1878-1954年)ゆかりの資料が4点、第二代教授の武田勝男博士(1901-1981年)ゆかりの資料が3点です。

今裕博士に関する資料は、(1)今裕博士宛の長與又郎書簡(1926年2月6日付、額装)、(2)「細胞と銀反応の研究」において帝国学士院賞を受賞した際の「祝賀会芳名録」(1934年5月

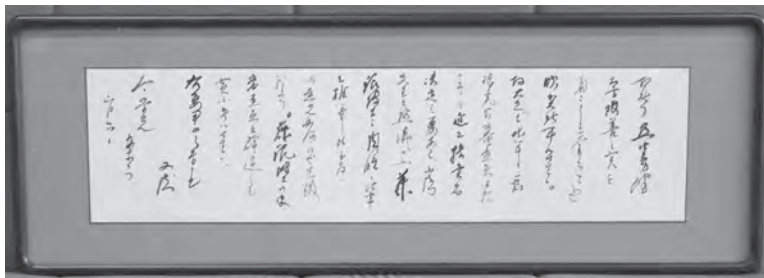
12日開催、於:東京医師会館)、(3)今裕博士が海外の並木風景を描いた油彩画と(4)1947年春に漢詩「読書可以医俗 作詩可以遣懷」を揮毫した木額です。書簡では、東京帝国大学の長與又郎教授、山極勝三郎教授、京都帝国大学の藤浪鑑教授の名前が揃っており、近代日本における癌研究の先駆者のネットワークと研究の最前線を感じ取ることができます。

武田勝男博士に関する資料は、(5)講義録、(6)「通俗講演・学術講演原稿集」、(7)1965年退官記念の「芳名録」です。講義録は1932年10月講義「Vorlesungen über allgemeine Pathologie」(一般病理学講義)から約

13点の直筆原稿が、講演原稿集は医学智識普及講演会での「ホルモンの話」(1938年7月)から約22点の直筆原稿やタイプ原稿類が綴られています。「アレルギー」、「免疫」、「癌」といった先端研究の領域における知見を、一般市民にも、専門家にも幅広く講演されていたことがうかがわれます。

今後、ご寄贈いただいた資料は大学文書館の沿革資料室収蔵庫において大切に保管し、整理作業を進めて利用に供し、大学沿革史の企画展示や年史編纂にも反映させていきます。

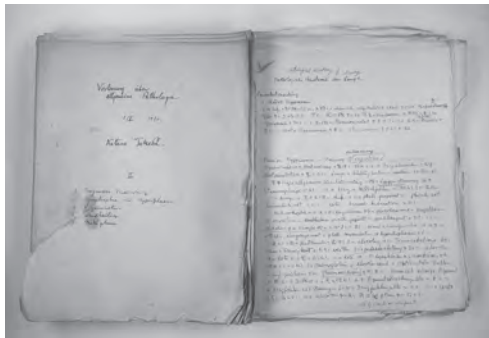
(大学文書館)



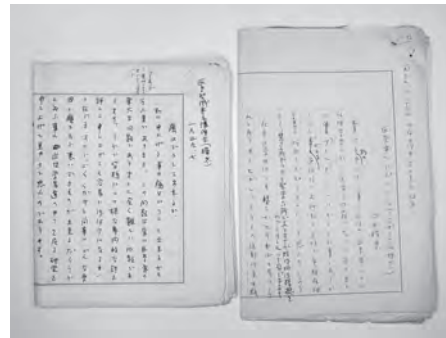
長與又郎書簡額(1926年)



油彩画(今裕作)



武田勝男講義原稿「一般病理学」



武田勝男講演原稿(1939年)